

【事務局からの重要なお知らせ】

現段階では予告通りに大会を開催する予定です

現段階の北海道・札幌市の新型コロナウイルス感染状況ですが、4月上旬（1-15日）の1日平均の新規陽性者数は、北海道（人口523万人）で71.9人、札幌市（人口196万人）で50.4人となっております。数字としては小康状態を保っており、現状では「まん延防止等重点措置」は検討されておられません。比較的陽性者数の多い札幌市には不要不急の外出自粛、また札幌市と道内他地域との往来自粛が要請されていますが、札幌市以外では道内独自のGo Toキャンペーンも始まっております。

このため、現段階では先だって予告しました通り、現地開催+オンライン開催のハイブリッド方式で大会を開催する方針です。会場での感染防止のため、間隔を空けて座れるように大きな会議室を手配しました。

とは申せ、事態は流動的です。情勢に鑑み、今後、緊急に大会を中止する場合の指針について、以下のよう
に定めましたので、ご承知置きください。

開催可否の判断ならびに周知徹底の方法について

開催可否の判断は以下の手続きで行い、最新情報はただちにHPに反映させるとともに郵送で周知徹底します。また、事務局（011-778-0380、mikami.atsushi@s.hokkyodai.ac.jp）に電話・メールでご照会いただいても結構です。

- ① 大会初日の会場である北海道立図書館・北海道立文書館が使用不可となった場合は、史料見学会のみを中止とします
- ② 大会2日目の会場である札幌エルプラザ（札幌市の施設）が使用不可となった場合、少なくとも現地開催は中止とします。完全中止とするか、オンライン開催に転換するかは、改めてご案内します。
- ③ 開催可否に関する最新情報はすみやかに公式HP（昨年4月からアドレス変更）に掲載しますが、中止とする場合は別途、文書を作成して全会員に送付します。

※公式HPアドレス→<http://w3.waseda.jp/assoc-zckyoiku/>

（旧HPにブックマークをつけている方は至急変更して下さい。）

大会を中止する場合の措置について

大会中止の場合、昨年度同様、発表を申し込まれた会員（および前年度に投稿権を得た会員）について発表を済ませたものとして投稿を受け付けます。大会開催の有無にかかわらず、通常通りにご発表・ご投稿の準備をお進めください。

なお、次回大会は1年後（2022年5月頃）となりますが、会場・開催方式等は白紙状態です。決まり次第、改めて会員の皆さまにお知らせします。

第44回大会について

三上 敦史（北海道教育大学）

コロナ禍による未曾有の混乱が続く中ではありますが、ご案内の通り、全国地方教育史学会第44回大会は事務局で承引して現地開催するとともに、久保田英助（関東学院大学）会員のご尽力をいただいてオンライン開催をも実施する、ハイブリッド方式で実施することになりました。

2020年、我々人類は今後永く教科書に載るであろう大事件に見舞われました。大学関係者にとっては、オンライン授業や感染防止対策を取った上での対面授業など教育における負担増で、とにかく大変な1年間でした。さらに各種学会の中止、出張制限により資料調査ができず研究も満足に進まないという問題にも見舞われ、被害は甚大でした。そして、それは今も続いています。

それだけではありません。我々、地方教育史研究に携わる者の多くは世間で言う「教育学者」に属し、大学に籍を置く会員の多くは教職課程を担当、その運営にも幾ばくかの～全面的な責任を負っています。他の学問分野と違い、講義科目ならいざ知らず、中核となる教育実習およびその事前・事後指導、教職実践演習といった科目をオンラインで満足に実施することなど不可能ですので、仕事の困難さはひとしおだったはずで、国立の教員養成系大学・学部における教育実習は（学部内でクラスターが発生した一部大学を除き）日数を短縮しながらも全国で実施されたことが非常に示唆的ですが、教える者と学ぶ者が直接触れ合うこと、また学ぶ者同士の人間関係が深まるのが教育効果を高めるには不可欠という当たり前の事実を再認識させられた2020年度でもありました。

ところで、2021年度の状況はいかがでしょうか。フル・リモート授業の継続を選んだ大学・学部には学生・連帯保証人からの抗議が、さらに監督官庁である文部科学省には各大学を指導するよう要請が相次いでいるとの報道も耳にします。最近の「まん延防止等重点措置」の適用によってフル・リモート授業に逆戻りする大学もあるようですので、その動きは今後一層激しくなるのでしょうか。

もちろん、大学には研究成果を社会に還元するという重大な責務がありますので、クラスターを出して研究が停滞することは避けねばなりません。しかし、「大学も学校なのだから対面授業中心にすべき」「少なくとも教職員がもっと手厚く学生をフォローすべき」という学生・連帯保証人の要望は正しいと思いますし、それは同時に教職課程の業務を円滑に進めるために不可欠のことでもあります。

さらに、そもそもラボでのデータ取りが研究の中心となる学問分野と違い、我々の多くは図書館・文書館やフィールドへ自由に入れなければ商売あがったりです。然るに国立国会図書館への入館は抽選制が続き、首都圏以外からは非常に使いにくくなっています。また、フル・リモート授業を継続する大学が部外者に図書館を開放するはずはありません。一部大学では出張制限も続いています。上述した教育についての固有の困難さをも考慮すれば、対面授業が当たり前の状況に戻ることは、我々の多くにとって教育上も研究上も大きな利益です。その意味では、対面授業の復活・拡大を求める学生・連帯保証人のポジションに近い希少な学問分野にあると言えるのかも知れません。

ちなみに、昨年冬～春、他分野に先駆けて中止判断を行った医系の学会の場合、昨秋からはハイブリッド開催が主流となっています。最新の情報に接する医学者は、既に現地開催を恐れていません。加えて、当学会の大会は、オンラインに閉じこもってはいできない史料見学会に特徴があります。ここは関連学会に一石を投じる意味も込めて現地開催すべしということで、幹事会では意見の一致を見たところですが、また、当初、オンライン開催は能力を超えるため実施しない方針でありましたが、久保田会員が名乗り出て下さったおかげでハイブリッド方式となったのは望外のことでした。

5月末の北海道は春本番、旅行には最適の大変さわやかな季節です。1年間、ご自宅と勤務先の往復程度しか移動のなかった皆さま、ぜひ久しぶりに現地へお越しになり、史料見学会からシンポジウムまでの日程を、また少人数による北の味覚の会食をお楽しみ下さい。お越しになれない皆さまには大変お気の毒ですが、オンラインの画面越しにお目にかかるのを楽しみしております。

全国地方教育史学会第44回大会プログラム

■ 大会日程表 ■

5月29日(土曜日) 大会初日 北海道立図書館北方資料室・北海道立文書館	5月30日(日曜日) 大会2日目 札幌エルプラザ4F「札幌市男女共同参画センター」
13:50 現地1Fに集合。検温・手指消毒をして入館。 14:00 書庫の見学・説明(約1時間)。 ※終了後は自由閲覧、流れ解散とします。 ※懇親会は企画していません。	9:00:受付開始。参加費(¥2,000)・年会費(¥4,000)。 9:30:研究発表(大研修室)。 12:00-13:00:休憩。なお、大研修室・中研修室を利用可。 [※12:00-13:00:第1回全国幹事会・常任幹事会(小研修室)。] 13:00-15:30:公開シンポジウム(大研修室)。 15:30-16:00:総会(大研修室)。

◎参加される方は、準備の都合上、「史料見学会」「研究発表」への「現地参加」「オンライン参加」のいずれかを、5月9日(日)までに事務局(三上敦史:mikami.atsushi@s.hokkyodai.ac.jp)へご連絡下さい。メールのタイトルは「地教史大会参加」として下さい。

◎大会初日の史料見学会のみ、北海道立図書館北方資料室・北海道立文書館にて開催します。2020年に北海道立図書館が増築され、北方資料室のみならず札幌市中心部の北海道庁赤れんが庁舎内にあった北海道立文書館を移転統合、カウンターが同じフロアで並ぶ複合施設となった結果、北海道の歴史に関する多数の一次資料が一ヶ所で閲覧できるようになりました。札幌市中心部からやや離れた江別市にあること、昭和のままの9:00-17:00の開館時間、駅付近にしかコンビニ・飲食店がないことに目をつぶれば、便利になったところですが、この施設を見学するとともに、開拓史文書や学校記念誌などをご自由に閲覧いただければと思います。なお、隣接地には北海道教育委員会の現職教員研修施設である北海道立教育研究所があり、道内の学校記念誌のコレクションが充実した図書室があるのですが、あいにく土曜日ですので利用できません。

◎社会情勢に鑑み、大会初日の史料見学会後の定例となっている懇親会は企画しません。少人数での会食もしくは個人での夕食をお楽しみ下さい。

◎大会2日目の受付では大会参加費(¥2,000)のみ徴収します。会場が公共施設であること、事務局が移転することから、会場での紀要配布は行わず、後日、年会費(¥4,000)の送金をいただいてから郵送します。なお、会場はJR札幌駅・北大に近接した施設ですので、コンビニ・飲食店とも非常に充実しております。

◎宿泊は各自で予約してください。JR札幌駅付近のホテルが便利です。私学共済会館(ガーデンパレス)は地下鉄大通駅近辺ですので、2日目の会場までは約10分の朝の散歩となります。その他、北大近辺・すすきの駅近辺にもホテルがあります。

◇会場へのアクセス

(1) 北海道立図書館 <https://www.library.pref.hokkaido.jp/index.html>

北海道立文書館 <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/sm/mnj/> : 江別市文京台東町41

①JR函館本線ご利用の場合、札幌駅から江別・岩見沢・旭川方面行きの普通列車に乗り、5駅目(所要15-20分)の「大麻(おおあさ)駅」で下車後、南口から徒歩8分ほどです。新千歳空港から大会初日の会場に直行される場合はJR快速エアポートに乗り、札幌駅で函館本線に乗り換えるか、一つ手前の「新札幌」駅でバスに乗り換えます(次の②を参照)。JRではSuica・ICOCAなどの鉄道系カードが使用できます。

②新千歳空港からJR快速エアポート、もしくは札幌市中心部から地下鉄東西線を利用され、「新札幌」駅

にて下車される場合、駅内のバスターミナルへ進み、北レーン 10 番乗り場の JR バス「江別（えべつ）駅」「野幌（のっぽろ）運動公園」行き、もしくは北レーン 12 番乗り場の夕鉄（ゆうてつ）バス「夕張・栗山方面」行きに乗り。約 14 分で「大麻駅南口」下車、あとは①と同様に徒歩 8 分ほどです。JR・地下鉄・JR バスでは Suica・ICOCA などの鉄道系カードが使用できますが、夕鉄バスは現金のみです。

(2) **札幌エルプラザ**：札幌市北区北 8 条西 3 丁目 <https://www.danjyo.sl-plaza.jp/>

JR 札幌駅北口から徒歩 3 分。4F「札幌市男女共同参画センター」大研修室へお越し下さい。

◇大会初日の午前中に関する情報提供

前泊される方は、北海道立図書館北方資料室・北海道立文書館のある大麻駅の 1 駅手前、「森林公園」駅で下車してバス・タクシーでちょっと行ったところに「北海道開拓の村」「北海道博物館」があります。早起きは三文の得で、いずれかにお越しになってはいかがでしょうか（規模・展示内容から考えると、午前中だけで 2ヶ所いっぺんに回るのは難しいように思います）。

「北海道開拓の村」はいわば「博物館明治村」（愛知県犬山市）の北海道版であり、全道各地から歴史的建造物を移築して作った野外博物館として知られ、国内外からの観光客の他、北海道内外の小・中学校の修学旅行でもよく利用されています。教育史関係では旧北海道帝国大学恵迪（けいてき）寮、旧北海道第一師範学校武道館、旧北海中学校本館があります。また、構内道路を夏は馬車鉄道、冬は馬櫓が走っています（別料金）。

「北海道博物館」は自然科学系にとどまらず、人文・社会科学系の展示・イベントも充実していて、子供のみならず大人でも楽しめる博物館となっており、北海道内の小・中学校の修学旅行・遠足・総合学習などでよく利用されています。なお、館の公式 HP にも載っていますが、小川正人会員が学芸副館長・研究部長・アイヌ民族文化研究センター長として勤務されています。

■ 研究発表・シンポジウム・総会 ■

〈大会 2 日目 5 月 30 日（日曜日）〉 札幌エルプラザ 4F「札幌市男女共同参画センター」

研究発表 10:00-12:00	会場：大研修室
------------------	---------

司会：大矢 一人（藤女子大学）・須田 将司（東洋大学）

(1) 10:00-10:30

加越能三州の学生寄宿舍「久徴館」及びその同窓会組織に関する考察

小宮山 道夫（広島大学 森戸国際高等教育学院）

(2) 10:30-11:00

明治期新潟県における中等学校の連合運動会

木村 政伸（九州大学）【オンライン参加】

(3) 11:00-11:30

光文社刊行雑誌『少年』に関する考察

——戦後の日本の子ども読者像の形成をめぐって——

田中 卓也（静岡産業大学）

◎ 11:30-12:00

全体討論

シンポジウム 13:00-15:20

会場 : 大研修室

テーマ : 「高等・専門教育機関と地域社会」

パネリスト : 井上 高聡 (北海道大学)
田中 智子 氏 (京都大学)
指定討論者 : 吉川 卓治 (名古屋大学)
司 会 : 吉野 剛弘 (埼玉学園大学)

総 会 15:30-16:00

会場 : 大研修室

◎研究発表・シンポジウム・総会とも、レジュメ・資料等は当日配布するほか、オンライン参加を申し込まれた皆さまには5月24日(月)までにメールでお送りする予定です。

◆寄贈図書 (2021年4月18日までの事務局到着分)

星野良一 (2020) 『明治七年開校 栃木県下都賀寒川郡出井村出井学校 その創立と運営の記録』ブイツーソリューション

◆入会・退会・異動 (2021年4月18日までの事務局到着分)

入会 : 加藤善子 (信州大学高等教育研究センター) : 神戸・阪神間における実業層の教育戦略に関する研究、松本深志高等学校 (旧制松本中学校) の「自治」の伝統に関する研究
退会 : 新海英行 (名古屋大学 [名誉])
異動 : 柏木敦 (立教大学)

◆事務局より

新年度に異動された方 (および郵送先を変更される方) は、事務局まで、①所属 (名誉教授となった方もその旨、お知らせ下さい)、②今後の郵送先 (変更がない時はその旨)、③事務局からの連絡先電話番号およびメールアドレス (自宅・勤務先、固定・携帯、公用・私用の別は不問、複数登録も可) をお知らせ下さい。なお、所属以外で非公表を希望する項目がある場合は、その旨、明記して下さい。

また、2020年度までに会費未納がある方には払込取扱票を同封してあります。郵便局 (ゆうちょ銀行) もしくはゆうちょダイレクトでお支払い下さい。

全国地方教育史学会 事務局

〒002-8502

札幌市北区あいの里5条3丁目1-5 北海道教育大学 三上敦史研究室内

TEL/FAX 011-778-0380

e-mail mikami.atsushi@s.hokkyodai.ac.jp

学会ホームページ <http://w3.waseda.jp/assoc-zckyoiku/>
